

大和商工会景況調査報告書

1. 調査要領

(1)調査対象

ア 対象地区 大和商工会地区内全会員
イ 調査企業数 390 事業所
ウ 回答企業数 186 事業所 (うち小規模事業者数 163 事業所)
(回答率 47.7%)

(2)調査対象期間

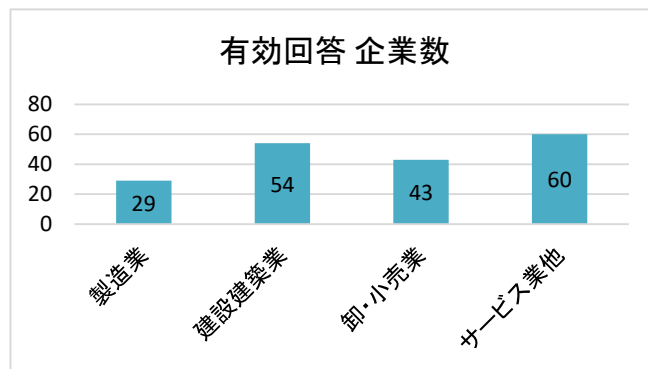
令和2年1月～令和2年6月
(調査時点 令和2年7月1日)

(3)調査方法

職員による巡回または窓口によるヒアリング調査(令和2年8月～9月)

(4)回答企業の構成

	有効回答	
	企業数	構成比
製造業	29	15.6%
建設建築業	54	29.0%
卸・小売業	43	23.1%
サービス業他	60	32.3%
合計	186	100.0%



2. 地域内産業全体の景況概要

新型コロナウイルスの影響により、前回調査と比べて全ての項目で減少や悪化の回答率が大きくなり、非常に厳しい状況が見てとれる。今後の見通しにおいても先が読めない状況であり、好転するとの回答は少ない。
 経営上の問題点における回答をみると、前回調査では従業員の確保が最も多かったのに対し、需要の停滞への回答が圧倒的に大きくなっている。

【売上高】

前年同期比と前期比においては、それぞれ65%・64%が減少したとの回答であった。昨年度調査ではそれぞれ42%・46%が減少回答であり、減少の回答率が大きく上がった。今後の見通しでは減少から不変への回答が少しあるものの、減少回答が半数以上と厳しい状況が伺える。
 業種別にみると、卸・小売業が約71%、サービス業が約65%悪化の回答となっている。

前年同期比

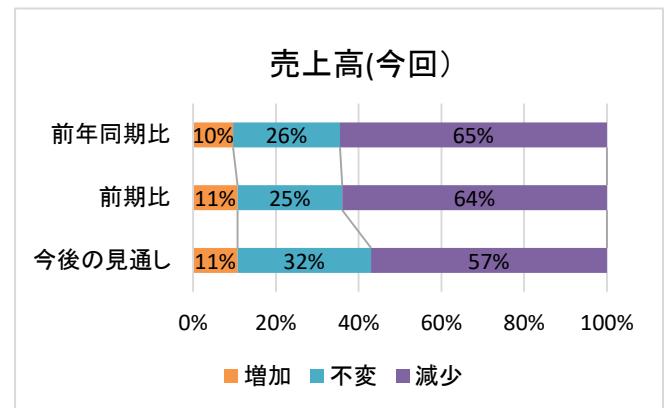
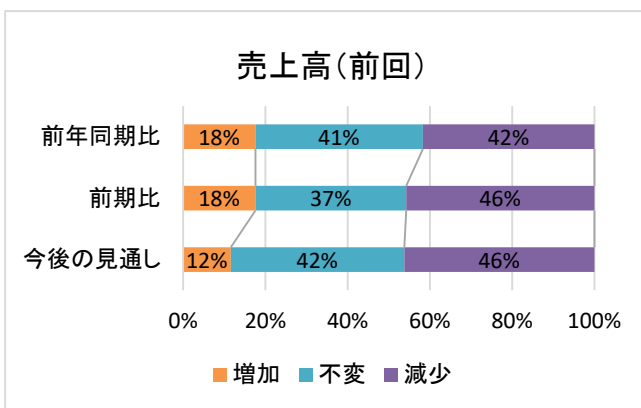
増加	不変	減少
18	48	120

前期比

増加	不変	減少
20	47	119

今後の見通し

増加	不変	減少
20	60	106



【採算】

売上同様に悪化の傾向が強い。好転は約10%、悪化の割合が約60%を占めており、採算も厳しい状況が伺える。業種別にみると、卸・小売業が約64%、サービス業が約63%悪化の回答となっている。

前年同期比

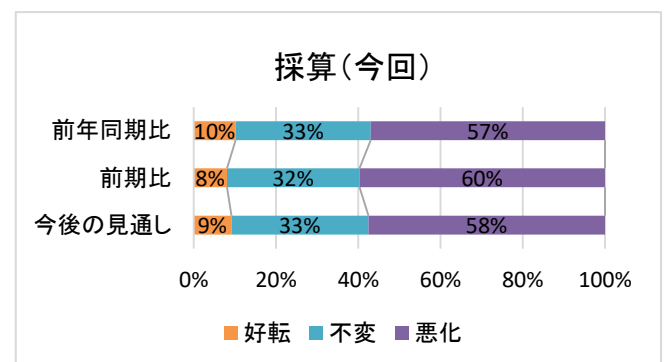
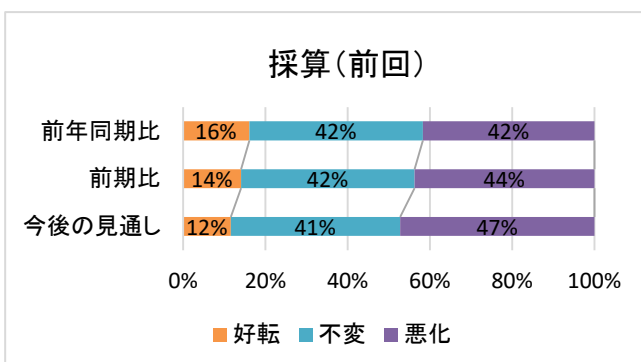
好転	不変	悪化
19	61	106

前期比

好転	不変	悪化
15	60	111

今後の見通し

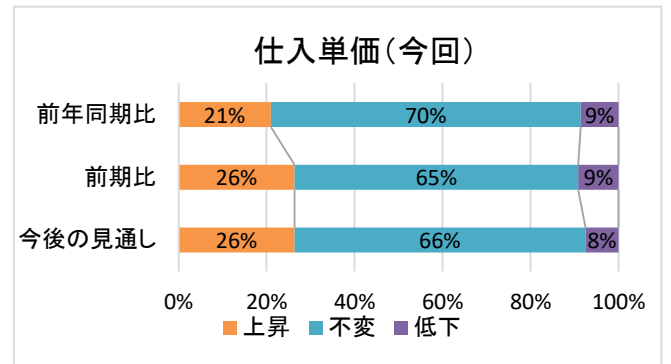
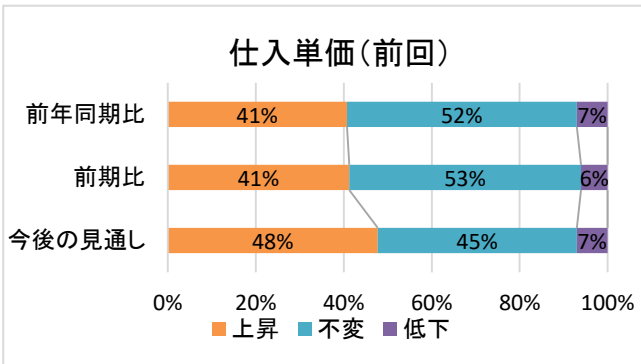
好転	不変	悪化
17	62	107



【仕入単価】

仕入単価に関しては、前回調査に比べ上昇回答が大幅に少なくなり、不変との回答が多かった。今後の見通しについても不変回答が多い。業種別にみると、製造業が約44%、建設業が約25%上昇の回答となっている。

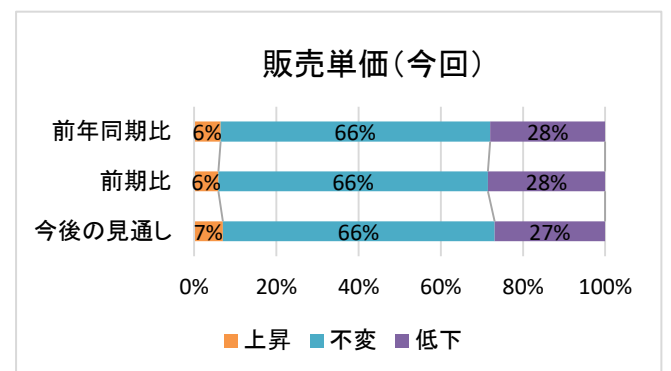
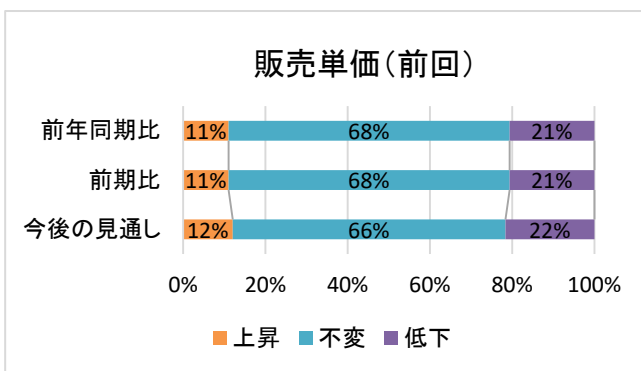
			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
39	131	16	49	120	17	49	123	14



【販売(客)単価】

前年同期比、前期比、今後の見通しの全てにおいて上昇が減少し、低下の回答が増えている。今後の見通しについてもほぼ変わらない状況となっている。業種別にみると、卸・小売業が約45%低下の回答となっている。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
12	122	52	11	122	53	13	123	50



【資金繰り】

前回調査と比べ、悪化の回答が大きく伸びすべての回答において約40%が悪化との回答となっている。
 売上・採算減少に伴い、資金繰りにおいても厳しい状況がうかがえる。
 業種別みると、サービス業他が約47%、卸・小売業が約41%悪化の回答となっている。

前年同期比

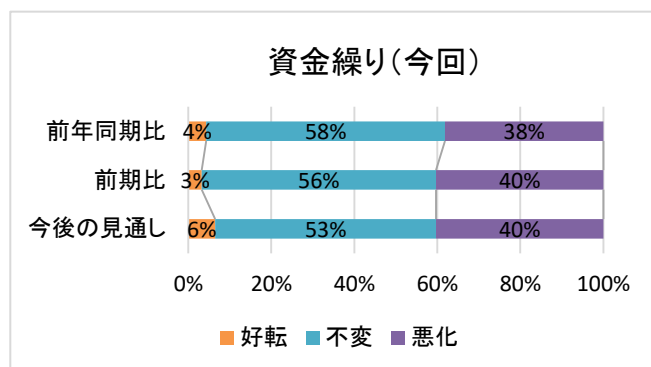
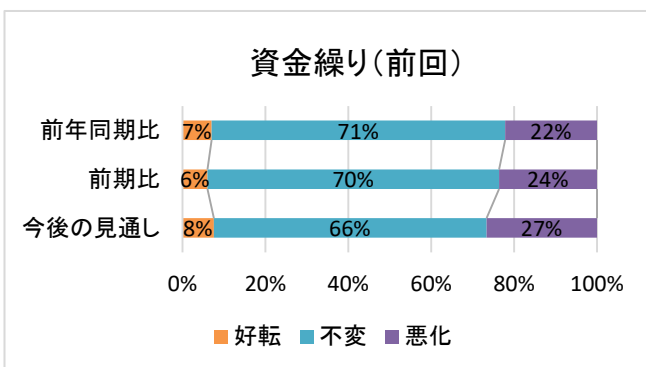
好転	不変	悪化
8	107	71

前期比

好転	不変	悪化
6	105	75

今後の見通し

好転	不変	悪化
12	99	75



【雇用動向】

前回調査よりも増加が大きく減少している。
 一方、減少の回答は少なくなっており、厳しい状況の中においても雇用の維持に努めていることが伺える。
 業種別にみると、製造業が約21%減少の回答となっている。

前年同期比

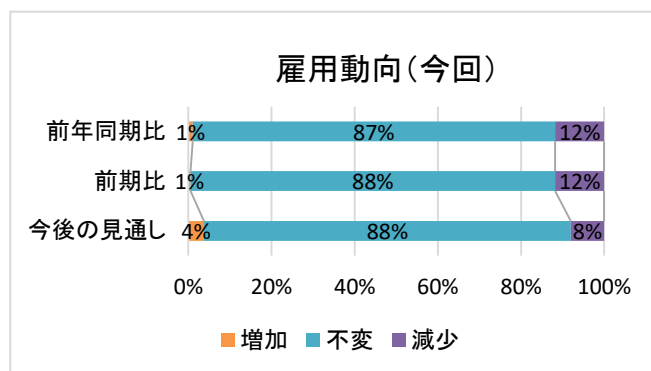
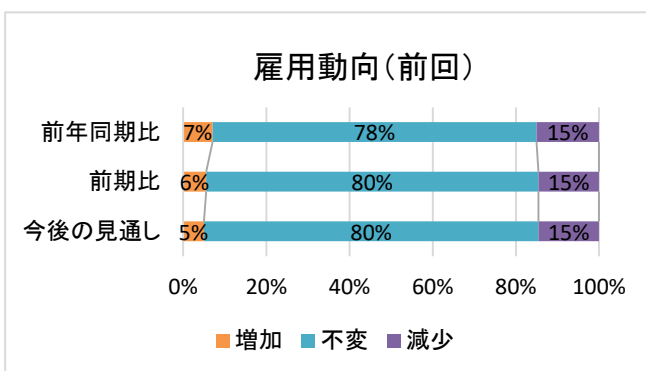
増加	不変	減少
2	162	22

前期比

増加	不変	減少
1	163	22

今後の見通し

増加	不変	減少
7	164	15



【景況判断】

全体的に不変、悪化が多く前回調査に比べ悪化の回答が大きく増加している。
 新潟県の経済動向(4月～6月)においては、「新型コロナウイルス感染拡大による国内外経済の停滞が与える影響などから、厳しい状況にあるものの、下げ止まりの動きがみられる。」との発表があるが、当地域においても厳しい状況が続くと思われる。
 業種別にみると、卸・小売業が約73%、サービス業他が約62%低下の回答となっている。

前年同期比

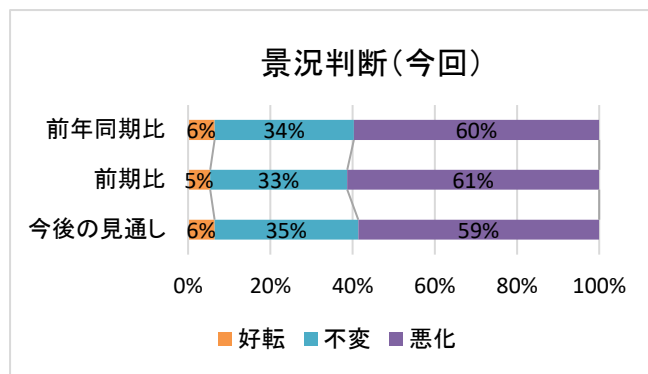
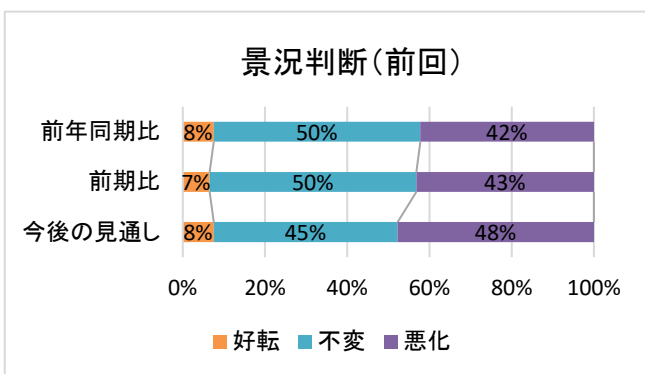
好転	不変	悪化
12	63	111

前期比

好転	不変	悪化
10	62	114

今後の見通し

好転	不変	悪化
12	65	109



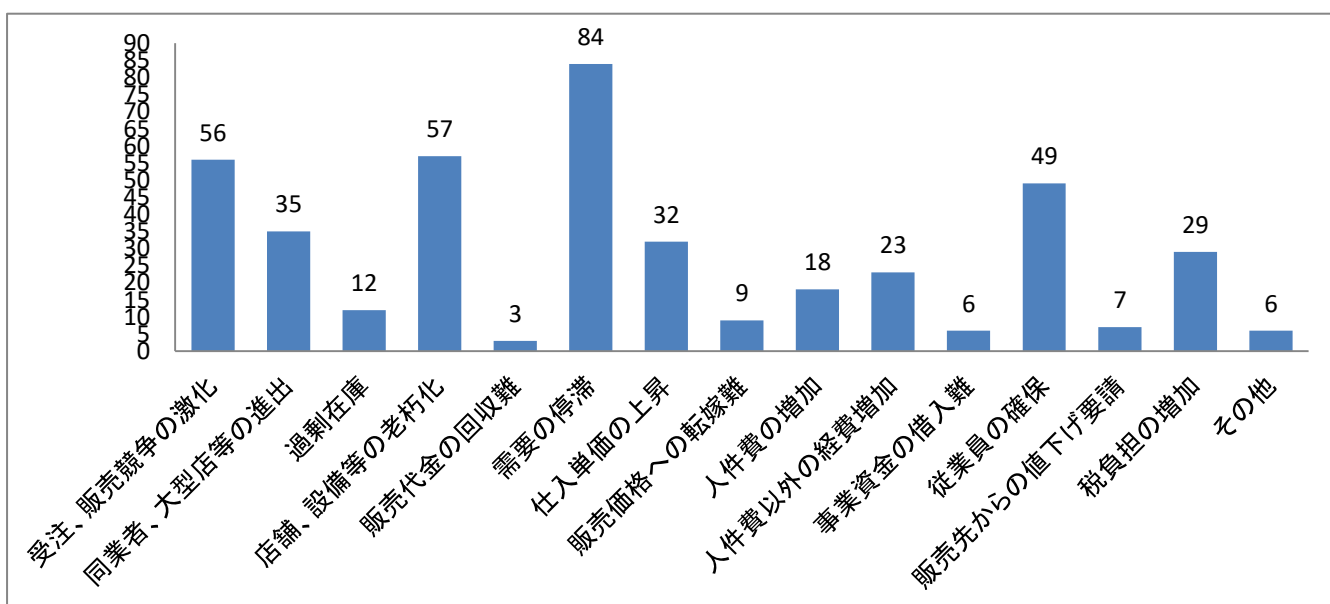
【経営上の問題点】

前回調査では「従業員の確保」が1位であったのに対し、「需要の停滞」が1位となっている。
 次いで依然として「店舗・設備の老朽化」も上位を占めており、経営資源への対策も余儀なくされている。
 「受注、販売競争の激化」も3位にあがってきており、IT活用などによる商品やサービスの提供の多様化などの影響も伺える。

(前回)

【1位】従業員の確保 【2位】店舗、設備等の老朽化 【3位】需要の停滞

(今回)



3. 今後の事業・経営において強化したい点(自由記述・抜粋)

(1) 製造業

安定した仕事量の確保。
新規顧客の獲得。
ネット販売。
販路開拓・商品開発。
役員及び社員教育・設備改修。
人口集積地への移転・販売力強化。
老朽化した設備の改修・生産性向上の為の設備投資。

(2) 建設建築業

元請会社の新規開拓強化。
社員(重機・オペレーター)の技術・マナー向上に重点を置き、全社員一丸となってやっていく。
新規顧客開拓。
受注の確保。
技術・技能の継承。
職人の確保。
従業員の確保。
ゼネコン増加。
資材置き場の確保。

(3) 卸売・小売業

抜本的な経営見直し。
現状維持が最大の目標。
定期収入の確保・店舗や車両の改装。
販路開拓。
固定費の経費削減。
高齢の従業員から若い社員へ。

(4) サービス業他

設備投資による生産性向上と新メニューの開発。
販路開拓と老朽化設備改善。
現状維持。
人材と技術の育成・スキルアップ。
業務の共有化。
設備投資によるコロナ対策。(通販事業進出)
技術・サービス向上・SNS活用。
個店ならではのキメ細やかなサービス提供。
誘客・感染予防対策。

景況調査ヒアリングシート (令和2年度)

調査対象期間 令和2年1月～令和2年6月
(調査時点 令和2年7月1日)

	企業名		代表者名	
企業 の 概 要	業 種	1:製造 2:建設 3:卸・小売業 4:サービス他		
	従業員数	人(内 常勤役員 人・家族従業員 人・臨時 人・パート 人)		
	後継者の有無	1:有 2:無		
	後継者無の方	今後の動向 ⇒ 1:事業承継したい 2:廃業予定 3:相談したい		

※従業員数は、家族従業員、常用雇用者、常勤役員、社員、臨時雇用者、パートを含みます。

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください。)

	前年同期(H31年1月～R1年6月)と比較して	前期(R1年7月～R1年12月)と比較して	今期(R2年1月～R2年6月)と比較した来期(R3年1月～R3年6月)の見通し
売 上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕 入 単 価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売(客)単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資 金 繰 り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇 用 動 向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景 況 判 断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

(2) 貴社の経営上の問題点(下記より上位3つまでを選び、○を付してください。)

- ①受注、販売競争の激化 ②同業者、大型店等の進出 ③過剰在庫
- ④店舗、設備等の老朽化 ⑤販売代金の回収難 ⑥需要の停滞
- ⑦仕入単価の上昇 ⑧販売価格への転嫁難 ⑨人件費の増加
- ⑩人件費以外の経費増加 ⑪事業資金の借入難 ⑫従業員の確保
- ⑬販売先からの値下げ要請 ⑭税負担の増加
- ⑮その他 ()

(3) 今後の事業・経営において強化したい点(設備投資・販路開拓等)

(4) 商工会に対する要望(講演会等のテーマ)